学校番号	3035

令和８年度　公民科

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	政治・経済（数研出版）						
副教材等	2026 最新図説政経（浜島書店） 2027 公共、政治・経済実戦攻略大学入学共通テスト問題集（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・現代の政治・経済のさまざまな事象について、相互に関連づけて多面的・総合的に取り扱う。
・社会全体の基本的なフレームワークを理解させ、主体的に考える力を養う。
・経済理論については、具体例な事例を用いて説明し理解させる。
・抽象的な概念についても、できるだけ具体的な実例を用いて説明し、理解させる。

2　学習の到達目標

【知識・技能】現代の政治・経済に対する知識を培い、統計資料等からその意味するところを読み取る技術を習得し、正しい認識を養う。
【思考力、判断力、表現力】現代社会のさまざまな課題や対立について、主権者として多面的に考察・判断し、かつ表現できる力を養う。
【学びに向かう力・人間性等】共生社会の一員としての自己の確立を促し、かつそのリーダーとして主体的に課題解決に取り組む資質と態度を育成する。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・現代社会の成り立ちについて、その歴史的な成立過程から理解する。その現状については、幅広く正確に認識して、その仕組みを理解する。 ・現代社会のさまざまな事象について、統計資料なども用いて現状を正確に把握する。	政治や経済を中心とする現代社会のさまざまな課題について、主体的な解決方法を探究する。また、公平・公正な視点で判断し、判断した理由を表現することができるようにする。	現代の社会に対する興味・関心を高めて、社会に主体的に関わりながら、効率と公正について、バランスをとりながら、両立させようとする態度を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめる。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	経済活動の意義と経済体制	1　人間と経済活動 2　資本主義社会の発展と変容 3　経済活動の主体	a:資本主義の変遷を理解している。アダム・スミス、リカード、マルクス、フリードマンの経済思想を理解している。 b:資本主義の変遷において、その問題点について考察・検討し、発表することができる。 c:現代経済に関心を持ち、主体的に現代経済の課題の解決を図ろうとしている。	・定期考査 ・授業内課題	・定期考査 ・ディベートや発表 ・授業内課題	・授業内での取り組み姿勢 ・レポート等課題提出 ・ディベートや発表等
	現代経済のしくみ	1　市場経済のしくみ 2　物価の動向 3　国民所得と経済成長 4　財政のしくみと租税 5　金融のしくみと働き	a:３つの経済主体の基本的な役割、市場機構(メカニズム)、さまざまな経済指標、現在の金融の役割を理解している。 b:将来の納税者として財政や租税における課題を考察し、発表できる。 c:経済主体の一員であることを認識し、主体的に経済活動に参画しようとしている。 インフレとデフレについて理解し、物価の動きが経済に与える影響に自己と結びつけようとしている。	・定期考査 ・授業内課題	・定期考査 ・ディベートや発表 ・授業内課題	・授業内での取り組み姿勢 ・レポート等課題提出 ・ディベートや発表等
	日本経済と福祉の向上	1　戦後日本経済のあゆみ 2　中小企業と農業・食料 3　公害防止と環境保全 4　消費者問題と消費者保護 5　労使関係と労働市場 6　少子高齢社会と社会保障	a:戦後の日本経済の歴史と現状、現代社会の諸問題についての基礎的知識を理解している。 b:現代社会の諸問題を課題するためにどのように取り組むべきかを考察し、表現できる。 c:日本の社会保障制度をはじめ、日本社会の諸問題を、自らの問題として意識している。	・定期考査 ・授業内課題	・定期考査 ・ディベートや発表 ・授業内課題	・授業内での取り組み姿勢 ・レポート等課題提出 ・ディベートや発表等

後 期	国際経済の課題と国際協力	1 貿易と国際収支 2 国際経済のしくみ 3 地球環境と資源・エネルギー問題 4 発展途上国の経済と経済協力 5 国際経済における日本	a:国際経済の仕組みや構成、貿易の理論と国際収支の仕組みを理解している。 b:国際経済における現代の課題について考察し、表現することができる。地球環境問題・エネルギー問題と国際経済を関連付けてその課題解決に向けて考察することができる。 c:グローバル化が進む国際経済においての日本や自己の役割について、主体的にとらえることができる。	・定期考査 ・授業内課題	・定期考査 ・ディベートや発表 ・授業内課題	・授業内での取り組み姿勢 ・レポート等課題提出 ・ディベートや発表等
	国際政治の動向	1 国際社会の特質 2 国際社会と国際法 3 国際社会の組織化 4 戦後国際政治の展開	a:戦後の国際政治の変遷と課題を理解したうえで、現代の国際政治の状況について、客観的にとらえることができる。 b:現在の国際社会の課題について国際法と関連付けて考察することができる。国際連合など国際社会のさまざまな国際組織のあり方について考察し、表現することができる。 c:現在の国際状況を把握した上で、主体的にこれからのよりよい世界に向けた課題解決を図ろうとする。	・定期考査 ・授業内課題	・定期考査 ・ディベートや発表 ・授業内課題	・授業内での取り組み姿勢 ・レポート等課題提出 ・ディベートや発表等
	国際社会の意義と日本の役割	1 核兵器の廃絶と軍縮問題 2 地域紛争と人種・民族問題 3 日本の国際的地位と役割	a:冷戦後の地域紛争について民族問題とリンクさせながら理解できる。 b:第二次世界大戦後の日本と国際社会との関わりや軍縮問題について考察し、表現することができる。 c:国際社会にける日本の役割だけでなく、自分自身が取り組むべきことを見つけようとする。	・定期考査 ・授業内課題	・定期考査 ・ディベートや発表 ・授業内課題	・授業内での取り組み姿勢 ・レポート等課題提出 ・ディベートや発表等

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度